

「衛星放送協会の年頭記者会見&賀詞交歓会」

神谷 直亮

衛星放送協会が1月21日に明治記念館（東京・港区元赤坂）で年頭記者会見を開催し、小野直路会長、滝山正夫副会長、岡本光正専務理事、音好宏理事が出席した。

小野会長は、能登半島地震による犠牲者に哀悼の意を述べた後、2023年を振り返りWBCやラグビーW杯効果で4K8K衛星放送の視聴可能機器台数が11月末で1,797万台に増えたことに触れ「協会として、さらなる有料・多チャンネル放送の市場拡大に取り組む」と強調した。具体的には、伝送路のインフラコストの低廉化とコンテンツのさらなる充実を図るといふ。

次いで、昨年11月のBS放送右旋帯域における基幹放送事業者3社の業務認定に関連して、総務省が主催する「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」と「衛星放送ワーキンググループ」にオブザーバーとして参加し、衛星のコストの低減や左遷の空き帯域の有効活用といった課題に取り組んでいると述べた。

この後、滝山副会長が協会の組織変更に触れ、2005年から協会の付属機関として活動してきた「CAB-J（衛星テレビ広告協議会）」を、4月1日に協会内に「広告委員会」を設立して統合すると語った。狙いは広告業界と協会が直接向き合うことで、協会会員である多チャンネル放送事業者の広告売

り上げの拡大を図ることにあるようだ。

さらに、会見では多チャンネル研究所の活動と第14回衛星放送協会オリジナル番組アワードについての報告がなされた。番組アワードに関しては、「番組部門6ジャンルは従来通りとするが、編成企画部門をコンテンツ展開部門に名称を変更する」との発表が行われた。理由は、番組編成だけでなく、クロスメディア展開の実績や成果を審査対象とするためである。授賞式は、7月12日に予定されている。

年頭記者会見の後、正午から賀詞交歓会が開催され協会の会員や関係者約200名が参加した。冒頭に能登半島地震で亡くなった方々への哀悼の意を表する黙とうが捧げられ、この後、小野会長、日本ケーブルテレビ連盟の今林理事長、スカパーJSAT社の米倉社長の挨拶が続いた。乾杯の音頭は自粛とし、協会の中川理事による参加者全員に対する謝意の挨拶で開幕となった。

「ニコン Z9」宇宙へ行く

2月7日にニコンが、国際宇宙ステーション（ISS）で使用されるフルサイズ/FXフォーマットミラーレスカメラ「ニコン Z9」を米航空宇宙局（NASA）に納入した

との発表を行った。この「ニコン Z シリーズ」のフラグシップモデルは、1月にSpaceX社の「ファルコン9」ロケットですでにISSに送られており、宇宙飛行士により使用される初のミラーレスカメラになった。

ニコンとNASAは1970年代から長い歴史を誇っている。1971年にニコンは、アポロ15号のためにNASA仕様の「ニコンフォトミックFTN」を開発し提供している。同社の発表によれば、その後1999年にはフィルム一眼レフカメラ「ニコン F5」、2008年にはデジタル一眼レフカメラ「ニコン D2XS」、2013年にはデジタル一眼レフカメラ「ニコン D4」をISSに届けた。さらに2017年から「ニコン F5」が、2020年から「ニコン D6」が使用されるようになり、今年から「ニコン Z9」が加わることになる。宇宙からすばらしい映像が届くのを楽しみにしたい。

H3 ロケット試験機 2号の打ち上げ成功

本稿執筆中に何よりもうれしいニュースが宇宙研究開発機構（JAXA）から飛び込んできた。2月17日の朝に種子島宇宙センターで行われた新大型基幹ロケット「H3」の打ち上げに成功したという。搭載されていたキヤノン電子が製作した「CE-SAT-



写真1 衛星放送協会の小野直路会長（向かって左から2人目）は、年頭記者会見でさらなる有料・多チャンネル放送の市場拡大に取り組む強い意志を表明した。



写真2 ニコンは、国際宇宙ステーションで使用されるフルサイズミラーレスカメラ「ニコン Z9」を米航空宇宙局（NASA）に納入したとの発表を行った。（出典：jp.nikon.com）



写真3 JAXAは、2月17日に待望の新大型基幹ロケット「H3」試験機2号の打ち上げに成功した。（出典：jaxa.jp）

1E] 地球観測衛星と宇宙システム開発利用推進機構が取りまとめた「TIRSAT」熱赤外超小型衛星の投入も予定通り実施された。2023年3月に行われた試験機1号の打ち上げが、第2段エンジンの不具合で失敗に終わったので少々気になっていたが、さすが日本のJAXAと三菱重工が行った「Fault Tree Analysis (故障の木解析)」と呼ばれる分析手法が功を奏したようだ。この後JAXAは、「H3」ロケットによる「だいち4号」「準天頂衛星5号」などの打ち上げを予定しており活躍が期待される

スカパー JSAT 社が新会社を設立

一月末にスカパー JSAT 社が、宇宙のスペースデブリ (宇宙ゴミ) 除去事業、スペースデブリ回転防止事業、地球観測事業を行う (株) Orbital Lasers を設立した。2018年に社内で立ち上げたスタートアッププログラムが基点になったという。2020年からは、理化学研究所と世界初のレーザーでデブリを除去する衛星ミッションの設計・開発を進めてきておりその成果ともいえる。報道発表によれば、2025年度にまず Detumbling (回転防止) 事業の販売を始め、Active Debris Removable (ゴミ除去) 事業の開始は2029年度になる予定とのことである。

HelasSat 社が「HelasSat-5」衛星を発注

Arabsat 社傘下の HellasSat 社 (本社:ギリシアのアテネ) が、「HellasSat-5」GEO 衛星に光通信ペーロードを搭載する方針を打ち出し、この開発に関してタレスアレニアスペース社 (TAS) と MoU を締結した。報道発表によれば、衛星との通信拠点をギリシャ、フランス、ESA に設置する計画という。ESA と TAS が進めている LEO HyDRON (High Throughput Optical Network) との接続も予定されているようで今後の展開が注目的になっている。

「2024 年は月着陸・探査イヤー」

JAXA は1月20日午前0時20分に、待望の小型月着陸船「SLIM (Smart Lander for Investigating Moon)」が月面に着陸し、地球との通信も確立できたとの発表を行った。目標としていた100メートル精度のピンポイント着陸にも成功したとのことでは喜ばしい限りである。また、着陸直前には、「LEV-1」「LEV-2」と呼ぶ2機の小型ロボットの放出を成功裏に行っている。しかし、着陸時の「SLIM」の姿勢が計画通りでなかったようで、太陽電池からの電力発生ができず予期した画像を取得できないという状況に陥った。この「逆立ち状態」という「SLIM」のクリティカルな着地画像をJAXAに送り届けたのは、既述の小型ロボットであった。具体的には「LEV-2」ロボットが撮影し、「LEV-1」ロボットの通信機能を使って地上に画像が送信されてきたという。

その後1月29日になってJAXAは、「太陽の向きが変わったことで太陽電池パネルが稼動するようになった」との発表を行った。これで着陸船に搭載した特殊なカメラで月面を撮影し、科学観測に役立てることが可能になった。万々歳と言って良い。

「SLIM」に続いて、日本の期待を一身に集めているのは、宇宙企業アイスペース (iSpace) 社の月着陸船「レジリエンス」だ。打ち上げは、今年12月に予定されている。

先月号で触れたが、2024年は米ULA社の「Vulcan Centaur」ロケットによるアストロポテック・テクノロジー社の月着陸船「ペレグリン・ミッション・ワン (Peregrine Mission One)」の打ち上げで始

まった。その後、第2弾としてインテュイティブ マシズ社の月着陸船「ノバC」の打ち上げが2月15日にファルコン9ロケットで行われている。この着陸船の底部にはステレオカメラが搭載されており、着陸の瞬間にエンジンが月面にどのような衝撃を与えるのかを観測するという。

新 4K8K 衛星放送視聴可能機器台数

最後に、放送サービス高度化推進協会 (A-PAB) が1月25日に発表した2023年12月末の新4K8K衛星放送視聴可能機器台数に触れたいと思う。累計は18,491,000台で、内訳は4K8Kチューナー内蔵テレビが13,488,000台、外付け4K8Kチューナーが259,000台、4K8Kチューナー内蔵録画機が1,864,000台、4K8Kチューナー内蔵STB (CATV受信) が2,880,000である。なお、月別では12月の合計台数が520,000台となっている。

これを機会にA-PABは4Kコンテンツの魅力を訴求する「A-PAB 4K番組アワード」を開催することにしたという。エントリー受付は、2月29日までとなっている。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m以下 (地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ポール4m 搭載
強化サスペンション
国内 (100V) 海外 (240V) 対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION
スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

A Communications k.k.